

可能性と 魅力あふれる地域

バリ島、バンコク、ホーチミン、アンコールワット……。長い休みは取りづらけれどちょっと海外に行きたい、という人にはうってつけの場所。買い物ができる都市あり、海がきれいなリゾートあり。屋台からおしゃれなレストランまで、おいしいエスニック料理も楽しめる。同じアジアとあって、街を歩く人々の雰囲気もどこか似ている。日本人にとって身近な存在だ。

これらの国には共通点がある。そう、全てが東南アジア諸国連合（Association of South East Asian Nations：ASEAN）の加盟国。1967年、域内の成長と発展を目指して設立されたASEANは、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイの5カ国でスタート。その後、ブルネイ、ベトナム、ラオス、ミャンマー、カンボジアが加わり、現在は10カ国で構成されている。

そして今、ASEANは未知なる可能性にあふれた市場として、国際社会から注目を浴びている。97年のアジア通貨危機から復活を遂げ、国内総生産（GDP）はこの20年で約5倍に。2030年までに、さらに2.5倍の増加が見込まれている。EU（欧州連合）やNAFTA（北米自由貿易協定）に経済規模こそ及ばないが、人口は約5・8億人と同様の域内組織として世界最大規模を誇る。

日本とASEAN 40年のつながり

この数年は、インド、アフリカ向けの輸出も拡大しているASEAN。資源も人材も豊富なこの地域は、域外の国々にとっても魅力的だ。中でも、地理的にも近い日本とのつながりは強く深い。現に、日本からASEAN地域への直接投資はこの7年で3倍とうなぎ上りだ。

しかし、こういったASEANと日本のつながりは、最近に始まったことではない。2013年は「日・ASEAN友好協力40周年」。長年にわたり、互いに助け、支え合っ

そして、未来へ

今、アジアの勢いがすごい。

都市部には高層ビルが立ち並び、道路には車やバイクがあふれている。

この数年、東南アジア諸国連合（ASEAN）の国々を中心に、

そんな光景があちこちで見られるようになった。

そして彼らは、次の成長のステージへー。

“チーム・アジア”として日本とタッグを組み、一地域としてさらなる発展を目指す。

編集協力：日本大学生物資源科学部国際地域開発学科 朽木昭文教授

ASEAN

特集



1 ラオス

首都：ビエンチャン
面積：24万km²
人口：660万人（2012年）
言語：ラオス語
宗教：仏教
主要産業：サービス業、農業、工業
1人当たり国内総生産（GDP）：1,399ドル（2012年）
実質GDP成長率：8.2%（2012年）
ASEAN加盟年：1997年



2 ベトナム

首都：ハノイ
面積：32万9,000km²
人口：8,900万人（2012年）
言語：ベトナム語
宗教：仏教、キリスト教、カオダイ教など
主要産業：農林水産業、鉱業、軽工業
1人当たり国内総生産（GDP）：1,596ドル（2012年）
実質GDP成長率：5.0%（2012年）
ASEAN加盟年：1995年



10 ミャンマー

首都：ネーピードー
面積：68万km²
人口：6,400万人（2012年）
言語：ミャンマー語
宗教：仏教、キリスト教、イスラム教など
主要産業：農業
1人当たり国内総生産（GDP）：834ドル（2012年）
実質GDP成長率：5.0%（2012年）
ASEAN加盟年：1997年



9 タイ

首都：バンコク
面積：51万4,000km²
人口：6,700万人（2012年）
言語：タイ語
宗教：仏教、イスラム教
主要産業：製造業、農業
1人当たり国内総生産（GDP）：5,480ドル（2012年）
実質GDP成長率：6.5%（2012年）
ASEAN加盟年：1967年



8 カンボジア

首都：プノンペン
面積：18万km²
人口：1,490万人（2012年）
言語：カンボジア語
宗教：仏教、イスラム教
主要産業：農業、縫製業、建設業、観光業
1人当たり国内総生産（GDP）：946ドル（2012年）
実質GDP成長率：7.3%（2012年）
ASEAN加盟年：1999年



7 マレーシア

首都：クアラルンプール
面積：33万km²
人口：2,920万人（2012年）
言語：マレー語、中国語、タミール語、英語
宗教：イスラム教、仏教、儒教・道教、ヒンズー教、キリスト教など
主要産業：製造業、農林業、鉱業
1人当たり国内総生産（GDP）：1万381ドル（2012年）
実質GDP成長率：5.6%（2012年）
ASEAN加盟年：1967年



6 シンガポール

首都：なし
面積：716km²
人口：530万人（2012年）
言語：マレー語、英語、中国語、タミール語
宗教：仏教、イスラム教、キリスト教、道教、ヒンズー教
主要産業：製造業、商業、ビジネスサービス業、運輸・通信業、金融サービス業
1人当たり国内総生産（GDP）：5万1,709ドル（2012年）
実質GDP成長率：1.3%（2012年）
ASEAN加盟年：1967年



5 インドネシア

首都：ジャカルタ
面積：189万km²
人口：2億4,700万人（2012年）
言語：インドネシア語
宗教：イスラム教、キリスト教、ヒンズー教、仏教、儒教など
主要産業：製造業、農林水産業、鉱業
1人当たり国内総生産（GDP）：3,557ドル（2012年）
実質GDP成長率：6.2%（2012年）
ASEAN加盟年：1967年



3 フィリピン

首都：マニラ
面積：29万9,000km²
人口：9,700万人（2012年）
言語：フィリピン語、英語
宗教：キリスト教、イスラム教
主要産業：農林水産業
1人当たり国内総生産（GDP）：2,587ドル（2012年）
実質GDP成長率：6.8%（2012年）
ASEAN加盟年：1967年



4 ブルネイ

首都：バンダルスリブガワン
面積：5,800km²
人口：41万2,000人（2012年）
言語：マレー語、英語、中国語
宗教：イスラム教、仏教、キリスト教など
主要産業：石油・天然ガス
1人当たり国内総生産（GDP）：4万1,127ドル（2012年）
実質GDP成長率：2.2%（2012年）
ASEAN加盟年：1984年

さらなる発展に向けて 新たな挑戦へ

そして今、ASEANは、新たな局面に立たされている。

ASEANといっても一様ではない。ASEAN4と呼ばれるのが、インドネシア、タイ、フィリピン、マレーシア。この4カ国は著しい経済成長を経て、今はその発展過程ゆえの壁、いわゆる「中所得国のわな」に直面している。一方で、CLMVと分類されるカンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナムは、いまだ他のASEAN諸国との所得格差が大きい。さらには、環境問題や高齢化

きた「仲間」なのだ。

東南アジアを歴訪した福田超夫首相（当時）が「福田ドクトリン」を表明したのが77年。「東南アジアと対等なパートナーシップを形成し、信頼関係を築きながら、協力を強化していきたい」というものだった。時代の変化の中でさまざまな困難に直面しつつも、ヒト・モノ・カネを通じた交流を続け、互いの成長のため、今や、なくてはならない存在となっている。

など日本にも通じる新たな課題に立ち向かっている国もある。

これから一地域として、ASEANがさらなる発展のために歩むべき道とは――。

「どの国も中所得国までは到達の道が開けましたが、高所得国になるためにはさらなる条件整備が必要です。『消費の質』の向上を目指し、ASEANへ消費産業に関する外資を導くことが突破口の一つ。そのための条件は、アジアで『人』が育ち、『文化センス』が向上することにあります」と日本大学の朽木昭文教授は話す。日本としても、長年ASEANに対して続けてきた橋や道路を造るインフラ整備に加え、人を、知を育む『ソフト面』の協力により重きを置くように。民間企業が力を発揮できるよ

う、互いの強みを持ち寄り、今まで以上に力を合わせるべき時に来ている。2015年には域内の関税を撤廃し、経済共同体として新たなスタートを切るASEAN。その変化の勢いを取り込み、経済成長につなげようとする日本。互いの成長の先にある未来に向けて、『チーム・アジア』の対等なパートナーとして、歩みを進めている。

日・ASEAN友好協力40周年

日本とASEANのつながりは、1973年に設立された日・ASEAN合成ゴムフォーラムが始まり。その交流開始から40周年に当たる2013年は、政治、経済、文化、青少年交流、観光など幅広い分野で記念交流事業を実施。12月14、15日には、東京で日・ASEAN特別首脳会議が行われる。



東南アジア諸国連合（ASEAN）事務局長 レ・ルオン・ミン

40年のつながりを力に

ASEANと日本は、長年にわたり政治、経済、文化などさまざまな面で交流を続け、緊密な関係を築いてきました。2013年は「日・ASEAN友好協力40周年」。まさに節目の年です。

そして今、私たちは成長の過程で新たな課題に直面しています。例えば、域内の格差是正やASEAN経済共同体（AEC）創設。これらを実現するためには、日本の経験と

知見が不可欠です。これまでも日本の協力の下、産業を支える人材を育てる大学間ネットワークや、域内の連結性を高める海運ルートの整備などを実施し、地域全体としての成長につなげてきました。

今後は、これまで以上に日本と力を合わせ、環境問題、海上保安、感染症、テロといった地球規模課題の解決に貢献していきたいと考えています。12月には「日・ASEAN特別首

脳会議」が東京で開かれ、各国の代表が集まって今後の展望を議論します。私たちはその場で、日本との関係強化に向けた道しるべを示したいと思っています。

私が事務局長を務める間に、AEC創設とASEAN創設50周年という2大イベントがあります。ASEANとして世界に輝きを放ってほしいよう、その土台づくりに力を入れていきたいと考えています。